Q&A

学校評価ってなんですか？

幼稚園は教育機関として継続的に改善をすることが大切で、そのために学校評価があります。学校評価には、自己評価・学校関係者評価・第三者評価があります。自己評価は義務、学校関係者評価は努力義務です。評価を通して教育の質の向上をめざすことは、幼児の健やかな発達を支える基盤となります。どの園でも毎年実施しましょう。

自己評価は、先生1人1人で行えば良いのですか？

先生一人一人がチェック表をもとに個人評価をしたものは園の自己評価ではありません。園長のリーダーシップの下で教職員みんなが参加し、重点目標や計画に照らし合わせながら、その取り組みや達成状況について話し合い、園の自己評価を行いましょう。

まずはじめの『重点目標』はどうやって決めれば良いのですか？

※重点目標（内面：自己評価・学校関係者評価報告書の 2. 本年度重点的に取り組む目標・計画）

これは、昨年度、課題になった事や幼稚園がもっとよくしたい事をあげると考えやすいと思います。難しく考えず、すぐに取り組める事を『重点目標』にしましょう。

※今年度取り組んでいる課題を重点目標にしても可

学校関係者評価は誰にお願いすれば良いのですか？

学校関係者評価は、自己評価の結果を評価することによって、自己評価の客観性を高めることができます。

また、園と家庭、地域が意見交換することで、園の現状や取組についての共通理解が深まり、連携協力が促進することが期待されます。委員は、園と直接関係のある保護者や地域の方々にお願いしましょう。幼稚園の評議員の方を活用してもいいですね。

なお、保護者アンケートは自己評価のための参考資料として使用するもので、それだけでは学校関係者評価にはなりません。

学校関係者評価は毎年行うべきですか？

学校評価は、評価をすること自体が目的ではありません。評価によって園のPDCAサイクルが回り、実践の質が向上し続ける風土を定着させることに意味があります。

自己評価と学校関係者評価はセットと考えて、毎年行うことをお勧めします。

自己評価や学校関係者評価におけるＥＣＥＱの位置づけはどのようなものですか？

ＥＣＥＱは学校評価にも活用できます。自己評価の充実に資したり、学校関係者評価委員と幼稚園の活動を共有する機会としたりすることが考えられます。幼稚園教育の質向上に寄与するものです。

※本リーフレットは、学校評価に初めて取り組む園等を対象に作成しています。次のステップに進みたい園やより詳しい内容を知りたい園は、「私立幼稚園のための学校評価ハンドブック」（4 月刊行予定：https://youchien.com/）を参照ください。

公益財団法人 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
2019.12.20.8000

すぐできる！

自己評価と学校関係者評価

～幼児の育ちを支える園の質の向上のために～

はじめに

幼児教育の質の保障とその向上の手段としての「学校評価」のうち自己評価が義務化されて10年以上（2007年）が経ちました。本来ならば義務ですから 100%でなければならない幼稚園・認定こども園の実施率は 88.6%（2014 年）、学校関係者評価は 55.7%（2014 年）にとどまっており、他学校種と比べてもかなり低い水準にあります。

令和元年10月からスタートした多額な公的支出にともなう幼児教育の無償化は、幼児教育の重要性が認められた証であるとともに、一層の幼児教育の質の保障やその向上を求めているのです。だからこそ「学校評価」の確実な実施が重要なのです。

- 今さら「学校評価」の目的や方法を尋ねにくい
- 自園では実施しているが本当にそれでよいのか自信が持てない

学校評価（自己評価・学校関係者評価）とは

教育の営みは PDCA「教育目標の設定（P）→保育の実践（D）→振り返り（C）→改善（A）し、次の目標を設定（P）」するというサイクルで示すことができます。このPDCAを繰り返すことで、実践の質が向上していきます。

同様に自園の教育の質向上は、教職員全員で「自園の良さや課題を把握し、その年度に取り組みたい重点テーマを設定し、園の皆で取り組み、その結果を振り返り、そこで新たに見えてきた次の目標に向かう」というサイクルとなります。これをまとめたものが園の「自己評価」です。また「学校関係者評価」は、この園の「自己評価」を保護者の代表や地域の方など園にかかわる外部の方にも開示して説明し、意見交換をすることによって、さらに広い視野から園の取り組みについての意見をいただき、園運営に役立て、自園の教育の質向上を図るものです。

このリーフレットを参考に学校評価を実施し、自園の幼児教育の質向上にお役立てください。

報告書の進め方・解説

年度初め

自己評価プロセス

1 **園の教育目標を確認する**

教育目標や教育方針などを教職員で改めて共有しましょう。
※以下5までのステップは、園長のリーダーシップの下、全教職員が参加して行う。

2 **園の重点目標を決める**

教育目標の実現に向け、昨年度の課題をもとに、本年度重点的に取り組むべき目標を決めましょう。

3

[1] 評価項目を設定する

重点目標の達成に向けた具体的な取り組みとして、評価項目を設定しましょう。3項目程度が目安です。

[2] 評価項目について自己評価をする

各評価項目の達成状況や達成に向けた取り組みの状況を把握・整理し、これまで進めてきた取り組みが適切かどうか、全教職員が参加して評価しましょう。その際、保護者アンケート等の結果を活用すると、自己評価のプロセスに客観性をもたせることができます。
報告書には、取り組んだ内容について記載し、取り組み状況について例えばA～Dの4段階評価等をつけ、その段階にした根拠を記述することが大切です。

年度途中

1月

4 **総合的な評価を行う**

上記を基に本年度の総合的な評価結果とその根拠を記載しましょう。

5 **今後の取り組むべき課題を考える**

本年度の評価をもとに、次年度以降取り組むべき課題を3項目程度考えましょう。

年度末

2月

学校関係者評価プロセス

6

[1] 学校関係者評価委員会を開催する（園が学校関係者評価委員会を組織する。）

学校関係者評価委員会開催までの間に、委員会を組織しましょう。保護者や地域住民などの学校関係者による構成が基本ですが、評議員会等の既存の組織を活用して評価を行うことも考えられます。
評価委員に幼稚園教育を理解していただくことも大切なポイントです。

[2] 自己評価をもとに学校関係者評価を実施する

（学校関係者評価委員会に対し、園長等が自己評価の取組状況を説明する。委員会は自己評価の結果等について評価し、その内容を取りまとめる。）

学校関係者評価委員会で、自己評価の結果及び今後取り組むべき課題（報告書1～5の記載内容）について、評価を受けましょう。

[3] 学校関係者評価報告書を作成し公表・報告する

（園が評価の結果を報告書に取りまとめる。報告書は広く保護者等に公表し、設置者に提出する。）

学校関係者評価委員会の結果を報告書に記載しましょう。また、保護者や地域住民等に、ホームページ・おたより・掲示等で公表するとともに、報告書を設置者に提出しましょう。

年度末

例 令和元年度　自己評価・学校関係者評価報告書

令和　　年　　月　　日

学）〇〇学園　　〇〇幼稚園

1．本園の教育目標

・美しいものに感動できる子ども　　・自分の考えや発見を表現できる子ども
・友だちと協力して意欲的に行動できる子ども　　・個性豊かで創造的な子ども

2．本年度重点的に取り組む目標・計画

幼稚園教育要領の改訂を踏まえ、一人一人の幼児を大切にした質の高い教育の実践を目指す。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育課程を見直し改善を図る	A	幼児の姿や遊びの記録をもとに、教職員が定期的に話し合い、ねらいや内容の見直しを行った。
2	教育の質向上のために、園内研修を充実させる	A	写真やエピソードを通して幼児の育ちを語り合う研修を毎月実施した。その結果、幼児理解が深まり同僚性も育まれた。
3	特別支援教育のための園内支援体制を整備する	B	特別支援コーディネーターを配置し、家庭や関係機関との連携を図り、個別の指導計画を作成した。

評価（A…十分に成果があった　B…成果があった　C…少し成果があった　D…成果がなかった）

4．総合的な評価結果

評価	理　由
A	３つの評価項目について重点的に取り組んだ結果、一人一人の幼児を大切にした質の高い教育を実践することができた。また、さらなる質の向上に向けた課題も明確になった。

評価（A…十分に成果があった　B…成果があった　C…少し成果があった　D…成果がなかった）

5．今後取り組む課題

	課　題	具体的な取り組み方法
1	環境	園庭や室内の環境について話し合い、遊びが充実するように幼児の発達に添った環境の構成に取り組む。
2	安全管理	緊急事態発生に備えて、危機管理マニュアル等を教職員間で共通理解し、意識の向上やマニュアルの改善を図る。
3	幼小接続	幼稚園と小学校の教師が共に学ぶ機会を持ち、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有して教育の接続を図る。

6．学校関係者評価委員会の評価

子どもたちがのびのびと自己を表現できる豊かな環境で生活している様子がみられた。幼稚園の教育目標のもと一人一人を大切にしたきめ細かい保育がなされ、子どもを中心に園づくりがされている様子は大変好ましい。今後も期待して園の成長を確認していきたい。